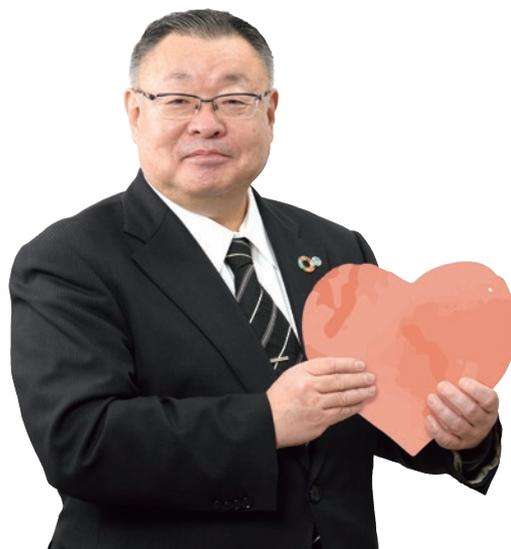


「クリミア戦争」とナイチンゲール

G7 広島サミットにウクライナのゼレンスキー大統領が訪れました。1年余りを経てもロシアによる侵略戦争は続いており、その惨状に心を痛めるばかりです。また、核兵器使用の脅威にもさらされているウクライナ及び東欧地域の現状を改めて認識するところです。ウクライナをめぐる紛争は2014年、クリミアがロシアに「併合」されることから始まっています。クリミアはこれまでも「凍らない海」として、その地を奪い合う歴史が繰り返されてきました。江戸時代の終わり、ペリーの黒船が来航した1853年に勃発した「クリミア戦争」は、イギリス、フランス、オスマン・トルコなどの連合軍とロシア帝国軍が戦い、連合軍が勝



ウクライナ、平和への道

利しました。

フローレンス・ナイチンゲールは、イギリス政府によって38人の看護師団のリーダーとしてクリミアに派遣されました。野戦病院で看護活動に従事し、病院内の衛生状況を改善することで傷病兵の死亡率を40%超から5%に劇的に引き下げたことは多くの人の知るところです。3年に及んだ戦争が終わり、帰国した彼女は看護の発展のため奔走しました。「犠牲なき献身こそが本当の奉仕である」と、他の人には「犠牲なき献身」を求めましたが、自分は昼夜を問わず患者のために無理な献身を続け、終戦の翌年37歳で過労によって倒れてしまいました。奇跡的に生還したものの、以後、1910年に90歳で生涯を閉じるまで、50年にわたりベッドで意見書や看護関係の書籍を執筆しました。

「私は地獄を見た。私は決してクリミアを忘れない」

「クリミアの天使」とも称されたナイチンゲールですが、初めて戦地に赴いた時のことを「私は地獄を見た。私は決してクリミアを忘れない」と後に書き残しています。また、「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦う者である」とも述べています。優しく傷病

兵に寄り添う彼女は、医療改革に向け、強い信念と粘り強い取り組みを続ける真の強さを持った人でもあったと思います。クリミア戦争から4年後の1860年には「ナイチンゲール看護学校」を開校し、後進の指導に力を注ぎました。彼女の功績は後に医療看護や公衆衛生の概念として確立され、医療や看護の発展に大きく貢献したのです。

ナイチンゲールは、1820年5月12日に生まれました。日本でも1990年に誕生日が「看護の日」に制定されました。連合はこの間、「看護の日」を中心に「安心と信頼の医療と介護」を掲げて集会や社会へのアピール行動を展開し、現在は「医療・介護フェス」として職場や地域の声を結集し、医療と介護の現場の実態を広く国民に訴え、職場環境の改善や政策の実現に向けて取り組んでいます。

ナイチンゲールは、戦地の多くの傷病兵の命を看護の力で救いました。G7サミット開催の前日、日本は自衛隊の病院にウクライナの負傷兵をリハビリ治療のため受け入れることを表明しました。人道的な支援の一つとらえますが、傷を癒したウクライナの兵士が再び戦地へ派遣されることなく、帰宅を望む家族のいる平和な場所へ戻れるよう祈るばかりです。